

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス 夢中		
○保護者評価実施期間	令和 6年 12月 9日		～ 令和 6年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18人	(回答者数) 15人
○従業者評価実施期間	令和 7年 1月 3日		～ 令和7年 1月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	適切な環境・人員体制を整備しています。 ・利用定員に合わせた十分な活動スペースを確保しており、学習や制作、体を動かす活動などをスペースごとに分けるなど、分かりやすく安全に配慮した環境設定を実施しています。 ・児童発達支援管理責任者、保育士、児童指導員、作業療法士など、複数職種が連携して支援を行う体制があります。	日々の支援の振り返りと共有をしています。 ・朝の打ち合わせで前日の支援を振り返り、当日の支援内容やねらい、職員の役割分担について全員で確認を行っています。 ・日々の支援に関する記録をしっかりと残し、次の計画・改善に活かしています。	地域や他機関との連携強化をします。 ・現状、児童発達支援センター等からのスーパーバイズは受けていないが、必要に応じた助言や研修機会の活用を検討することで、支援の専門性を高めていきます。 ・地域との交流イベントについては、保護者の意向を踏まえたうえで、子どもたちが地域社会に接する機会を創出できないか、慎重に検討します。
2	清潔かつ安心して過ごせる空間作り、プログラムを整備しています。 ・サービス提供の前後に清掃時間を設け、常に清潔な環境を整備しています。 ・階段には手すりを設置するなど、子どもが安全に活動できるよう危険防止に努めています。 ・災害を想定した訓練やBCP（業務継続計画）の策定、各種マニュアルの整備など、安全管理体制を整えています。 ・集団活動だけでなく個別の活動も取り入れ、子どもの特性や状況に合わせた柔軟な支援を行っています。	支援プログラムの充実と多様化を目指しています。 ・毎月、支援員が意見を出し合いながら活動プログラムを立案し、固定化しないよう意図的に担当者を変動制にして新しいアイデアが生まれる工夫をしています。	安全管理や緊急時対応の周知徹底します。 ・BCPや緊急時マニュアルに基づく職員訓練は実施しているが、保護者への周知が十分ではないため、説明資料やSNSなどを活用して周知を進めます。
3	保護者との連携・評価の反映した取組をしています。 ・保護者からの意見や評価表を基に、具体的な業務改善につなげています。 ・連絡帳や送迎時の声かけを活用し、日々の子どもの様子を保護者へ共有しています。 ・週ごとにSNS発信を行うなど、活動の様子をわかりやすく周知しています。	スタッフのスキルアップを目指しています。 ・社内研修や社外研修を積極的に活用し、療育の知識やスキル向上を図っています。 ・虐待防止や身体拘束防止に関する研修・委員会を設置し、職員全体で知識を深める機会を設けています。	保護者同士の交流機会を創出します。 ・保護者同士が情報交換や悩みを共有できる場を設ける計画を検討中です。 ・ペアレント・トレーニング等、家族支援プログラムの充実を図り、家庭と連携した療育効果の向上を目指します。

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第三者評価の未実施です。 ・現在、外部機関による評価は行っておらず、客観的な評価やアドバイスを獲得の機会が不足しています。	外部とのネットワーク構築の難しさ ・保護者のニーズを優先するなかで、地域連携や他機関との交流に踏み出しづらくなっています。 ・第三者評価等の手配には費用や手間がかかるため、事業運営上の優先度が後回しになりがちです。	客観的評価を取り入れた業務改善 ・第三者評価や外部アドバイザーの導入を検討し、支援の質を客観的に評価して改善につなげます。 ・現在実施中のPDCAサイクルに、外部視点を積極的に取り込みます。
2	地域や他事業所との交流機会が少ないです。 ・保護者の意向もあり、地域や児童館との交流が少ないため、社会資源を広げる機会が限定的です。	保護者への情報提供体制の偏り ・口頭や書面、SNSでの連絡は行っているが、防災・緊急時など重要度の高い情報を保護者に向けて体系的・定期的に伝達する仕組みが整っていないです。	地域資源の活用と保護者ニーズの調整 ・保護者の安心感を尊重しつつ、子どもの成長にとってプラスになる地域交流の機会を慎重に模索します。 ・児童発達支援センターなど専門機関との連携によって、職員研修やスーパーバイズを受ける体制を強化します。

3	<p>保護者への安全対策情報が不足しています。</p> <ul style="list-style-type: none">・事業所側では避難訓練やマニュアル整備を行っているが、保護者への取り組み内容の周知が十分ではありません。	<p>保護者への情報共有ツールの活用不足</p> <ul style="list-style-type: none">・事業所でおこなっている避難訓練や安全対策会議を周知する機会やツールを設けられていません。	<p>保護者への安全対策の情報提供強化</p> <ul style="list-style-type: none">・既に策定済みのBCPや緊急時マニュアルについて、定期的な説明会や文書化した資料を通じて保護者に周知を図ります。 <p>ヒヤリハット事例や再発防止策などを保護者にも共有し、安心して利用できる事業所運営をさらに推進します。</p>
---	--	--	--